

市長	副市長	部長	課長等	リーダー	担当	供覧	報告者
第8回養父市振興計画審議会会議録							
期 日	平成22年5月13日(木) 午後1時30分～4時30分						
場 所	養父市立大屋市民センター 2階会議室						
出席並びに 欠席委員 出席20名 欠席 5名 凡例 ○：出席 ×：欠席	委員氏名		出欠等	委員氏名		出欠等	
	会 長	荒田幹夫	○	委 員	仮屋美子	○	
	副会長	大林賢一	○	委 員	宇都良栄子	○	
	副会長	正垣道子	○	委 員	梅井逸郎	○	
	委 員	池田和揮	×	委 員	村上隆司	○	
	委 員	山下邦子	×	委 員	田渕久和	○	
	委 員	雑賀 学	○	委 員	吉田明博	○	
	委 員	圓山 光	○	委 員	米田一之	○	
	委 員	松岡 勇	○	委 員	池田ビルギット	○	
	委 員	田中今子	×	職員委員	満田理恵	○	
	委 員	田村 譲	○	職員委員	奥藤 啓	×	
	委 員	山根美智子	○	職員委員	井平 聡	○	
	委 員	小松原貴美子	○	職員委員	塚本 竜	×	
	委 員	藤原光子	○				
アドバイザー	松原永季・スタジオ・カタリスト代表取締役						○
事務局	政策監理部長	児島一裕	×	企画政策課主幹	藤野英希		○
	企画政策課長	栗田伸一	○	企画政策課主査	田村 亘		○
	まちづくり課長	阿部 稔	○				
<p>1 開会 (大林副会長) 私の会社では「家族の日」という日があり、その日は何があっても定時で帰って家族と共に過ごすという日である。本日、私は結婚記念日で「家族の日」を設定している。毎回、いろいろな意見が出て、時間が延長気味になっているので、時間どおりに終われるようにお願いしたい。</p> <p>2 あいさつ (荒田会長) ギリシャの経済危機が話題になっている。ギリシャの経済力は日本の12分の1の規模である。全世界に占めるGDPのウエイトは、日本の6.3%に対し、ギリシャは0.5%しかない。そのような小さな国の経済危機で世界経済が大混乱する。今や経済はグローバル化し、自国の防衛策だけでは安心でない仕組みとなっている。ギリシャの債務はGDPの109%、アメリカは88%、日本は217%と、ギリシャの2倍。国民1人当たりの借金額は約700万円の世界一の借金大国であるが、話題にならないのは、他国と比べ日本は個人の金融資産が債務の1.5倍あるからである。国民は、個人資産を担保にされ、国の経済力のバランスシートをよく見せるように利用されている。国に力がなくなると、国債の金利が上がり、国は多額の国債発行分の高金利を払うために、さらに借金をしたり、予算を削減したり、増税を行う。ますますインフレが加速し、負のスパイラルへ突入し、ギリシャやイタリアのようになってしまう。行財政は、我々には分かりにくい仕組みになっている。養父市の自主財源比率は25%弱であり、75%は国からの補助金や借入金で市政を行っている。国からの交付税の計算基準は、面積、人口、財政状況などを加味して計算される。端的に言うと、財政力が弱いほど、多くの交付税をもらえる仕組みになっている。同じような田舎の町でも、財政力がしっかりしている町では交付税は少ない。今のやり方は、努力した者が評価をされる</p>							

仕組みになっていない。従って、市は無理して財政力を高めなくてもいい。本気で改革が進まないのは、ここに抜本的な問題がある。国に力があるからできるが、国に力がなくなればできなくなる。国の財政状況から見て、これからの時代は国を頼れなくなる。将来「仕送り」が少なくなっても暮らしていける、自立した体質にしなければならない。養父市の人口は、全国比1000分の2.2である。GDPは1000分の1.9である。兵庫県の中でも、養父市の人口は5%に満たない規模だが、いい意味で存在感のあるまちにしたいと思う。将来想定されるいろいろな課題を解決しながら、具体的にどんなまちにしていくのか、その役割を誰がどのように担うのか。我々人間は、生きる厳しさを忘れていた。現実をしっかりと見つめ、原点に返りながらも希望を求めて、その実現への知恵を出し合いたいと改めて感じる。戦後の高度成長期は終わること覚悟して、昔に戻るということを認識しなければならない。そのこともしっかりと頭に置いて、総合計画をたて、その総合計画に基づいた市政を行っていくような計画ができればと思う。今日もよろしくお願ひしたい。

3 進め方の説明～本日とこれから～

(松原アドバイザー) 前回5つの柱でまとめていこうということになった。この柱をすべて統合し、市民にアピールする将来像を見据えた言葉を「大黒柱」としている。本日は、「大黒柱」の検討を行う。まず、みなさんから「言葉の種」を出し合っていた後、それを絞り込み、短い言葉、みんなに伝わる言葉を考えていく。今後は、柱に対して、施策、事業を当てはめる。これは、事務局で整理したものを用意している。次に、何が大事で、何に集中して取り組むべきかを検討し、次に市民への伝え方、実現していくためにはどうすればいいかを検討していただく。

4 前回の振り返り

(松原アドバイザー) 4月15日のワークショップのまとめに基づき、振り返る。

5 「総合計画の大黒柱」のキーワードを出し合う

(松原アドバイザー) 短い、分かりやすい、ありきたりでない、養父市らしい、5つの柱を包含できる、養父市民がまとめられる言葉、覚えやすい、明るく意欲がもてる前向きなイメージで、できるだけ多くの言葉を出していただきたい。

6 班ごとに発表

班ごとに、言葉の意味等を説明しながら、まとめた「大黒柱」を発表。続いて、同じような意味の言葉を集め、グループ化し、委員のシール投票を行った。まとめは別紙のとおりで、続いて行った意見交換で出た意見は次のとおり。

- ・ 総合計画をもとに市政を進めていき、政策、予算、組織、議会もつながっていく。
- ・ 兵庫県は「ユニバーサル社会」を柱としている。
- ・ 「とんとんとんからり」は軍歌であり、使うべきではない。
- ・ 「ふるさと」は、外から見て「ふるさと」であり、内部の人から見て「ふるさと」になるのか。
- ・ 「ふるさと」は5つの柱を包含する。養父市らしさは「ふるさと」しかない。
- ・ 自分が持つイメージ、経験を大切にしたい。あえてイメージが広がるよう「結」の1文字とした方がインパクトはある。
- ・ いろいろな人がこの言葉を見てイメージする。かたよった言葉にすると思いが尊重されない。
- ・ 最初からスローガンがほしいと言っていた。それぞれに違う「結」がある。
- ・ 「結」は辞書にもあり、新しい言葉ではない。
- ・ 封建社会の掟的な言葉だが、これからの養父市の社会には必要である。
- ・ 個人がバラバラのことをやりながらまとまっていくには、「結」しかないと思う。
- ・ (「結」と「ユニバーサル」を一緒にした)「結バーサル」はどうか。
- ・ 「とんとんとんからり」の歌詞を知りたい。難しい言葉より少し興味を持つような言葉の方がよいのではないか。
- ・ 今の時代にぴったりの歌詞である。「結」も「とんとんとんからり」も、どちらもコミュニティがメインになっている。
- ・ 農村のしがらみにひっつけるようなことでは困る。
- ・ 深い歴史的背景は知らないが、分かりやすい言葉である。
- ・ 歴史があって今がある。悪いことも、良いことも教え合っていくことが必要で、表裏一体である。
- ・ 過疎が進み、これを解決するにはお金が必要だが、どうやって支え合っていくのがテーマになる。

※まとめ

本日でまとめることはできないので、事務局で整理案を作成し再検討する。

7 閉会

(正垣副会長)